

## 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

### 1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については、全ての教科の平均正答率が全国平均を若干下回ったが、国語B以外では全国平均とのポイント差は3ポイント以内であった。

中学校の調査結果については、数学Aの平均正答率が全国平均を上回った。また、国語B・数学Bでも三重県の平均を上回り、4教科中3教科で改善が見られた。

#### 【小学校】

	国語A	国語B	算数A	算数B	全教科平均
熊野市	72.0%	52.0%	76.0%	43.0%	60.8%
三重県	73.6%	57.0%	77.4%	44.6%	63.2%
全国	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%	64.2%
全国との差	-2.8P	-5.5P	-2.6P	-2.9P	-3.4P

#### 【中学校】

	国語A	国語B	数学A	数学B	全教科平均
熊野市	76.0%	72.0%	65.0%	48.0%	65.3%
三重県	76.9%	70.7%	65.3%	47.3%	65.1%
全国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%	65.6%
全国との差	-1.4P	-0.2P	0.4P	-0.1P	-0.3P

※経年結果については別紙参照

### 2. 各教科における特徴

#### (1) 小学校

##### ① 国語A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っているものが多い。

設問内容では、「指示にしたがってください」の「しじ」という漢字を読むことについて、95.0%の児童ができており、「申しこみ期限」の「きげん」も94.1%の児童が正解するなど、漢字を読むことについての正答率が高い。また、ことわざの意味について問われた問題でも86.6%の児童が正解している。

しかし一方で、漢字を正しく書くことについては、「箱がおいてあります」の「置いて」については69.7%の正解にとどまり、無回答率も18.5%と最も高くなっている。また、「参加たいしょう」の「対」は書いているものの「象」を書き間違えた児童が25.2%おり、同音異義語など、習った漢字を実際に文章の中で正しく使うことに課題が見られた。

## ②国語B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より下回っているものが多い。

設問内容では、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題では全国平均を0.6ポイント、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題については全国平均を5.6ポイント、それぞれ平均正答率が上回った。

一方で、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめて書く問題の平均正答率が29.4%、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題の平均正答率が27.7%とともに低く、昨年度改善傾向にあった記述式の問題を書く力について課題が見られた。

## ③算数A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率が全国平均を上回っているものと、全国平均を下回っているものが混在している。

設問内容では、1mの値段が60円のリボンを、2m、3m買った時の値段をそれぞれ考える問題については、98.3%の児童ができています。また、小数と整数の加法の計算を理解しているかを問う問題「 $10.3 + 4$ 」については、83.2%の児童ができており、全国平均を3.5ポイント上回っている。しかし、「 $5 \div 9$ 」(商を分数で表しましょう。)のように、同じく計算の力を問う問題でも、単純な四則計算ではなく、回答に条件が加わった問題では、平均正答率が57.1%にとどまり、全国平均を12.1ポイント下回った。

## ④算数B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っているものが多い。

設問内容では、示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現できるかを問う問題では、82.4%の児童ができており、全国平均を上回っている。

一方で、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題では、平均正答率が10.9%であった。この問題の正答率は全国平均でも13.2%で、当市だけに見られる傾向とは言えないものの、根拠を基に判断の理由を述べる問題を解く力に課題が見られた。

## (2) 中学校

### ①国語A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率が全国平均を上回っているものと、全国平均を下回っているものが混在している。

設問内容では、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする問題は、6問中5問で全国平均を上回った。また、語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使うことができるかを問う問題では、正しい敬語を選択する問題が88.6%、正しい接続詞を選択する問題が98.6%の平均正答率で、どちらも全国平均を上回った。

一方で、事象や行為などを表す多様な語句の理解について問う問題では、「再検討」「保留」という言葉を正しく使えた生徒は32.9%で、全国平均を2.9ポイント下回った。

### ②国語B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率が全国平均を上回っているものと、全国平均を下回っているものが混在している。

設問内容では、昨年度改善傾向にあった記述式の解答については、設問3問全てで全国平均を上回

り、今年度も改善がさらに進んだことがうかがえる。必要な情報を集めるための見直しを持ち、アンケートの内容を考える問題では、平均正答率が75.7%で、全国平均を6.9ポイント上回った。しかし、全国平均を上回った他の2問については、平均正答率がそれぞれ42.1%、58.6%であり、半数近くの生徒が誤答であったことから、これからもさらなる改善が必要である。

### ③数学A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率が全国平均を上回っているものと、全国平均を下回っているものが混在している。

その傾向を設問内容で見ていくと、文字式の計算とその利用についての問題では、4問全てで全国平均を上回った。特に、 $(2x + 5y) - (6x - 5y)$ を計算する問題では、平均正答率は83.6%で、全国平均を5.1ポイント上回っている。

一方で、図形における角の性質や合同条件、命題の仮定と結論の意味などを問う問題については、全てで全国平均を下回った。特に、錯角の意味を理解しているかを問う問題では、平均正答率が32.1%で、全国平均を11ポイント下回った。

### ④数学B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率が全国平均を上回っているものと、全国平均を下回っているものが混在している。

その傾向を設問内容で見ていくと、筋道を立てて証明し、証明を振り返って考える問題では、3問全てで全国平均を上回った。特に、証明した事柄を用いて、新たな性質を見出すことができるかどうかを問う問題では、全国平均を10ポイント近く上回った。

一方で、同じく図形の問題でも、図形の対称性や移動について考える問題については、3問全てで全国平均を下回った。また、図形として現れた事象を数学的に捉える問題も、3問全てで全国平均を下回った。

## 3. 児童・生徒質問紙調査結果について

質問紙調査結果では、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合が、小中ともに昨年度に引き続き全国平均を上回っており、児童・生徒どうしの対話を重視し、お互いの考えを交流することでより深い学びへと繋げていく授業への改善が、各学校において進んできていると言える。

また、小中ともに、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください」と、「地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます。）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童・生徒が全国平均を上回っている。これは、学校と地域が共に手を携えて、児童・生徒の健全な成長に向けて取り組んでいることを表していると考えられる。

気になる点として、「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対し、中学校では80.0%の生徒が肯定的な回答をし、全国平均を10ポイント近く上回ったが、同じ問いに小学校では肯定的な回答をした児童は74%にとどまり、全国平均からも3.9ポイント下回った。自己肯定感や自尊感情と学力との相関関係はこれまでも指摘されており、当市の結果もこのことと矛盾していないと思われる。「豊かな学力」は、子どもたちに、自信と未来の可能性への展望を与えるものと言える。

### 【児童質問紙（小学校）】

**回答の割合が全国平均を上回っている項目**

○5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：92.4% 全国：88.7%

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：93.2% 全国：86.0%

○学校に行くのは楽しいと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：90.8% 全国：86.3%

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：97.5% 全国：94.8%

○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：74.0% 全国：70.4%

#### **回答の割合が全国平均を下回っている項目**

○将来の夢や目標を持っていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：75.7% 全国：85.9%

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：48.7% 全国：64.4%

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：39.4% 全国：57.3%

#### **【生徒質問紙（中学校）】**

#### **回答の割合が全国平均を上回っている項目**

○1，2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：91.5% 全国：80.3%

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：89.3% 全国：80.4%

○学校に行くのは楽しいと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：87.9% 全国：80.9%

○将来の夢や目標を持っていますか

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：78.6% 全国：70.5%

○新聞を読んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：21.4% 全国：14.9%

### **回答の割合が全国平均を下回っている項目**

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：63.6% 全国：69.6%

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：62.8% 全国：69.4%

○普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

・「3時間以上」と回答した割合 熊野市：23.6% 全国：18.1%

※長時間のスマホ利用は大きな課題であるので、割合が大きいことを「全国平均を下回る」として  
います。

### **4. 学校質問紙調査結果から見てきた傾向**

全国学力・学習状況調査では、学校における指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査も実施しています。

その中で、「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。」「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。」については、すべての小中学校が肯定的に回答しており、仲間との対話を通して様々な考えに触れ、自らの学びを深めていく授業の構築に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることが伺えます。

一方で、「近隣等の小学校（中学校）と教育目標を共有する取組を行いましたか。」「近隣等の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。」「平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校（中学校）と成果や課題を共有しましたか。」については、肯定的に回答した学校が少なく、小学校と中学校の連携の強化に向けた取組をさらに進めていく必要があります。